

事業者のご紹介2

(事業再開等を果たされた事業者のみなさま)

平成30年12月

福島相双復興官民合同チーム

(公益社団法人福島相双復興推進機構)



<はじめに>

私たち福島相双復興官民合同チームは、これまでに約5,200の事業者の方々を訪問・支援させて頂いておりますが、そのなかで、復興やまちづくりに熱い想いを持つたくさんの方々のお話をうかがうことができました。

事業再開や開業に当たっては、多くの事業者がさまざまな悩みや苦労を抱えながらも、「相双地域の復興のために」「愛する故郷に活気を取り戻すために」という想いのもと、着実に歩みを進めておられます。

平成30年3月にその方々の取組みをほんの一例ではございますが、冊子としてとりまとめさせていただきました。今回、第2弾として24の事業者をとりまとめさせていただきましたので、ぜひご一読ください。

この冊子以外にも、奮闘する多くの事業者をホームページやフェイスブックでご紹介しておりますので、こちらも併せてご覧ください。

ホームページ:

<https://www.fsrt.jp/activity>

QRコード



フェイスブック:

<https://www.facebook.com/kanmingoudouteam/?fref=ts>

QRコード



掲載事業者の所在地・電話番号・HPアドレス

事業者		所在地	電話番号	ホームページ	頁
あおば塾	※広野町	広野町大字下北迫字折返35-4 アイアイ会館2階	0246-22-1801		1
有限会社遠藤きのこ園	※川内村	川内村大字上川内字錯ノ沢503-7	0240-38-2518		2
手打そば 楓	※檜葉町	埼玉県比企郡鳩山町石坂525-1	049-236-3035		3
花錦園	※大熊町	会津若松市追手町5-45 1F	0242-23-9123	http://www.geocities.jp/kakin.en/index.html	4
株式会社葛尾電子工業	※葛尾村	田村市常葉町常葉古御門29-1	0247-67-1311	http://www.kdkinc.co.jp/index.html	5
髪工房千代田軒	※南相馬市	南相馬市小高区関場1-10	0244-44-2635		6
有限会社カミノ製作所	※川俣町	川俣町山木屋字問屋33	024-563-2121		7
蒲生歯科医院	※檜葉町	檜葉町北田中満289-3	0240-25-2061		8
有限会社キャニオンワークス	※浪江町	いわき市好間工業団地1-1	0246-36-1102	http://canyon-works.com/	9
CANDO	※双葉町	いわき市岩間町岩下30-2 AC館内	090-4634-5719	https://naminori-cando.jimdo.com/	10
居酒屋こんどこそ	※浪江町	浪江町権現堂新町8-2	0240-34-4288		11
JOE' SMAN2号	※双葉町	東京都世田谷区太子堂2-25-6 池田ビル2F	03-6450-8792	http://joes-man2.com/	12
有限会社新瀧(サッポロラーメンたき)	※浪江町	浪江町高瀬字桜木8	0240-23-7450		13
有限会社宗弥(和太鼓教室 TAIKO-LAB町田)	※大熊町	東京都町田市原町田4-11-14 コロンブスビル6F クラウド・ナインスタジオ内	080-5953-4027		14
株式会社伊達屋	※双葉町	双葉町大字長塚字町東66-1	0240-33-2212		15
御菓子処 たまのや	※田村市	田村市船引町船引字畑添116-1	0247-82-0227		16
陶吉郎窯	※浪江町	いわき市四倉町細谷字水俣75-17	0246-38-7855	https://www.toukichirougama.com/	17
トリニティプロジェクト株式会社(麺屋酒房ぼっけもん)	※富岡町	富岡町本岡関ノ前200-1	0240-23-7383		18
有限会社ナラハマイカーセンター	※檜葉町	いわき市小川町上平字前田12	0246-88-1734		19
日本舞踊藤咲寿欄	※大熊町	会津若松市城北町1-38	090-5352-0279		20
抱月荘	※南相馬市	南相馬市原町区馬場字川久保3	0244-23-5826	http://www.hougetsusou.jp/	21
ホテル西山	※南相馬市	南相馬市原町区朝日町2-49	0244-24-3222	http://www.uyou.gr.jp/hotel-nishiyama/	22
株式会社緑里	※川内村	川内村大字下川内字松川原46-4	0240-23-6501		23
株式会社ユアライフ	※富岡町	福島市伏拝字田中21-1	024-563-4671	http://www.yurlife.co.jp/	24

あおば塾（学習支援業・広野町）



塾長の吉野さん



「あおば塾」の風景



遊技交流会の風景

- 塾長の吉野さんは、震災前に広野町のアイアイ会館で学習塾を営んでおり、震災後はいわき市で再開しました。その後、“相双地区の子供たちのために塾を再開してほしい”との声を受け、広野町での塾再開を決意しました。
- 「あおば塾」の再開に加え、アイアイ会館を震災前のような相双地域の方々が集う場所にしたいとの強い思いから、様々な文化活動の教室を統括する「相双文化発信センター」を開設しました。現在、「あおば塾」の他、加圧センター（加圧トレーニング教室）、遊技交流会（将棋、囲碁、オセロ、マージャン）を開設しています。
- 地域の方々に自分の趣味・特技・技能などを教え、伝え、地域の方々と共に楽しみたいという先生、生徒さんを随時募集しています。

有限会社遠藤きのか園（農業・川内村）



遠藤 雄夫(たけお)さん



肉厚な椎茸



「ひたむき椎茸」ロゴマーク

- 「有限会社遠藤きのか園」を営む遠藤さんは震災前、川内村で施設栽培によって菌床椎茸を生産していました。震災後、川内村の全村避難により郡山市での避難生活を余儀なくされましたが、震災からわずか半年後には帰還し生産を再開しました。
- 再開後は、菌床づくりに必要なおが粉の廃棄などもあり、販売するまでにおよそ1年半の時間を要しましたが、その後は着実に収量を増やしていき、県内でも指折りの生産量を誇るようになりました。
- 平成28年には、ご子息の雄夫(たけお)さんが家業を継ぐために川内村役場を退職し就農しました。これまで栽培してきた椎茸に加え、新たに栽培を開始した品質の高い「ひたむき椎茸」は、東京・銀座の料亭や遠く岡山の飲食店への販路拡大に成功。ブランド化を目指しています。

手打そば 楓（飲食サービス業・楡葉町）



ご家族の皆さま



店舗外観



一番人気の「天せいろ」

- 経営者の渡部由美子さんは、南相馬市原町区出身。平成22年4月、当時ご夫婦が住んでいた楡葉町で「手打そば 楓の庄」をオープン。開店当初から、観光バスも来るような人気店となりました。
- 開店後わずか一年で東日本大震災によってやむなく閉店。ご家族は避難生活を余儀なくされました。各地で避難生活をされた後、埼玉県の高山町に落ち着き、平成25年に前店主から引き継いだうどん店「福一」を二年程営んでいました。
- その後、ご主人の強い希望で、平成27年7月、高山町に「手打そば 楓」をオープンさせましたが、オープン後間もなく、ご主人が他界。渡部さんは、ご主人が残したお店を再開すべく、そば打ちを猛勉強し、平成28年10月28日、「手打そば 楓」は再オープンしました。

花錦園（水産養殖業・大熊町）



事業主の相樂さん



観賞会・即売会の様子



養育された金魚

- 事業主である相樂さんは、非常に繊細な金魚という生き物を愛し、震災の5年前、主に金魚の養殖を営む「花錦園」を大熊町に開業しました。養育した金魚は品評会へ出展、受賞歴を重ね、出荷先からの評判も良く事業は好調であった矢先、震災に見舞われました。
- 震災後、避難先である会津若松市での事業再開を決意。養殖場作りというゼロからのスタートは、多くの苦勞を伴いましたが、平成25年に事業を再開することができました。
- 会津若松市のシンボルである鶴ヶ城前に店舗を構えてから5年、新天地での事業再開は苦難の連続でした。現在も手探りで事業を進めていますが、これまでの地道な努力も実り、平成30年11月には晴天の秋空の下、「花錦園」の主催で観賞会・即売会を開催するに至りました。

株式会社葛尾電子工業（電子部品・葛尾村）



松本社長



工場内の様子



自社製品の「見守りライン」

- 「葛尾電子工業」は、エレベーターの制御盤や東北新幹線の運転系統の制御盤を大手企業から受注するなど、高い技術力が評価される会社であり、葛尾村には2社しかない製造業の一つでした。
- 屋内待機指示後も操業を続けていましたが、従業員も避難とともにほとんどが辞めてしまいました。その後、田村市へ工場を移転。風評被害も影響し、徐々に受注の依頼は減少していきましたが、受注生産一辺倒ではなく、自社製品の開発に着手しました。
- 高齢者世帯の安否確認ができる電話機「在宅見守りコールシステム」を作り上げ、販売を開始しました。葛尾村での事業再開は難しい状況にありますが、葛尾の雇用を守り、被災地から製品を発信していきたいと、村の復興に対する思いを強くもっています。

髪工房千代田軒（理容業・南相馬市小高区）



代表者の松本さんと奥様



店舗外観



店内の様子

- 「千代田軒」は、昭和12年創業の老舗理容店です。3月11日は代表の松本さまの誕生日で、常連さんの散髪をし始めようとした時に地震が発生。その後、南相馬市小高区は避難区域に指定され、避難を余儀なくされました。
- 避難の際、持ち出したのは「命の次に大事」な散髪用の「ハサミ」。お店は、長期休業せざるを得ない状況になりましたが、松本さんはお店の再開に備え、避難先の猪苗代町から毎週お店に通い、日課であった掃き掃除や草むしりを入念にこなしていました。
- 平成28年9月に5年半ぶりに念願の帰還再開を果たしました。再開にあたり、お店をバリアフリー化。手すりを設置し段差もなくし、高齢者にやさしいお店になりました。なじみのお客様で賑わっています。

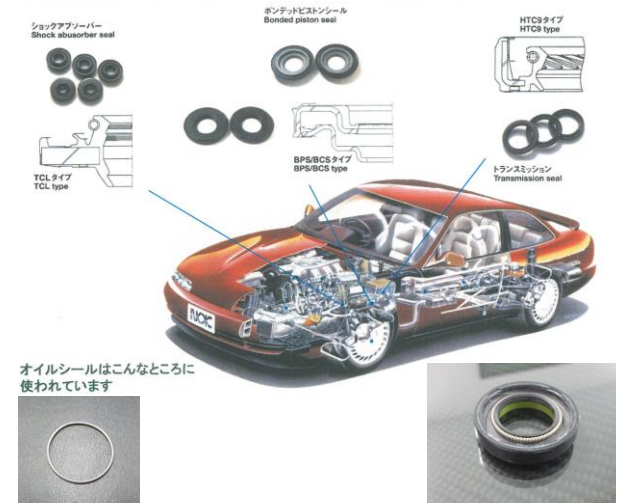
有限会社カミノ製作所（金属製品製造業・川俣町）



神野社長



工場内の様子



オイルシール（潤滑剤の漏れや異物の混入を防ぐ密封装置）部品

- 「カミノ製作所」は、昭和47年に金属加工の工場として山木屋地区に操業しました。自動車エンジンのオイルシール（ガータースプリング）を製造するほか、納豆の製造も行っていましたが、震災の影響で福島市での移転操業を余儀なくされました。
- 平成27年、休止していた納豆製造事業を山木屋地区で再開。金属加工事業については福島市で事業を継続していましたが、川俣町から川俣西部工業団地への立地を打診されたこともあり、神野社長は「原発事故後に支援してくれた町や住民の方々に恩返ししたい」と帰還を決断しました。
- 平成30年5月、新工場が完成し、7年ぶりに古里・川俣で事業再開しました。現在、社員18名で一日に50万本ものオイルシールを製造。高品質なオイルシールは国産ハイブリッド車のエンジンバルブなどに使用されています。

蒲生歯科医院（その他医療保険業・楡葉町）



蒲生院長



歯科医院外観



歯科治療機器

- 楡葉町で母親の代から開業し、町で唯一の歯科医院だった蒲生歯科医院。診療していた歯科・皮膚科は震災により閉鎖を余儀なくされ、震災後、蒲生院長は山形県に避難していました。
- 山形県内で勤務医を務める中、福島への思いを断ち切れず事業再開を決意。平成26年6月、いわき市内の上荒川仮設住宅内に仮設歯科診療所を開き、楡葉町民のために診療を開始しました。
- その後、「私が帰らないと、歯科医院のない町になってしまう」と楡葉町での帰還再開を決心。平成28年7月、県立ふたば復興診療所の隣接地で歯科医院を再開し、現在平日月曜から金曜日まで診療しています。

有限会社キャニオンワークス（製造業・浪江町）



半谷代表取締役社長



いわき工場外観



オリジナルブランド製品

- 「キャニオンワークス」は、昭和51年、半谷社長の父上（現会長）が浪江町で創業。順調に事業拡大する中で被災し、葛尾村～猪苗代町～つくば市と避難を続け、当時の元請会社があった群馬県において、倉庫の一角を借りて仮工場を作り、平成23年7月に操業を再開しました。
- 半谷社長の「浜育ちは浜に帰りたい」との思いから、帰還再開を決意。平成24年に社長に就任し、平成26年に現在のいわき工場を建て再起を図りました。また、平成30年4月にはいわき工場に本社機能を残しつつ、浪江町で一部操業を再開しました。
- ゼロから顧客を開拓し、現在では60名ほどの従業員を抱える規模に回復。現在のキャニオンワークスは、帆布製品をメインに、OEMや官公庁向けの製品のほか、アウトドア用品の企画・生産を行い、自社オリジナルブランドにも力を入れています。

CANDO（キャンドゥ）（教育、学習支援・双葉町）



代表の前田淳さん



レビューミーティングの様子



スクールメンバー

- 「CANDO」の代表の前田さんは、双葉町で震災前から生きがいであったサーフィンを教える仕事をしていたが、原子力災害により新潟県柏崎市に避難を余儀なくされました。
- 震災後は、避難先で海洋調査などの仕事に従事してましたが、故郷の海が忘れられず、現在はいわき市の岩間海岸を中心に活動しています。
- ISA国際サーフィン連盟の公認サーフコーチでもある前田さん。福島の花にかつての賑わいを取り戻すため、現在も精力的にサーフィンの普及活動に取り組んでおり、「レジャーとしてサーフィンを楽しみたい！」という方から、世界を舞台に活躍する方まで、幅広くサポートしています。

居酒屋こんどこそ（飲食サービス業・浪江町）



店主の大清水一輝さん



店舗外観



鮮魚を使った創作料理

- 「居酒屋こんどこそ」は、浪江町に開店以来、「安くて美味しい」と地域の方々に親しまれてきました。震災後の平成23年11月、避難先の二本松市で店を再オープン。地元のお客さまだけでなく、以前の常連さんたちも足を運んでいただけるようになりました。
- 二本松での営業が軌道に乗る中、ご子息である一輝さんは、「故郷の浪江町で再開したい」との強い思いから、二本松店の営業と並行して浪江店再開の準備を着々と進めていきました。
- 平成30年9月、居酒屋「こんどこそ」はついに浪江の元の場所で営業を再開。新しく掲げられた看板が浪江の夜に明かりを灯しました。「店を地元に戻りたい人や、これから来る人の集う場所にしたい」と意気込んでいます。

JOE'S MAN 2号（飲食サービス業・双葉町）



店主の高崎丈さん



店内の様子



新鮮なお刺身

- 店主の高崎丈さんは、平成21年に双葉町で居酒屋「JOE'S MAN」をオープンし、お店の経営は順調に推移していましたが、東日本大震災が起き、奥様の実家のある千葉県への避難を余儀なくされました。
- 避難後、かつて修行した川崎市内のお店で3年間勤めたのち、平成26年10月に念願だった東京・三軒茶屋駅近くで、居酒屋「JOE'S MAN 2号」をオープン。居酒屋激戦区である三軒茶屋でも、常連客の多い人気店となりました。
- 日本酒は福島地酒を60種類以上用意。市場直送の鮮魚を創作料理で提供するなど、日本酒と魚にこだわったお店です。「燗酒」のおいしい飲み方を教えてくれるイベントも開催しています。

有限会社新瀧（サッポロラーメン たき）（飲食サービス業・浪江町）



店主の瀧真琴さん



店舗外観



人気のみそラーメン

- 「有限会社新瀧」は、浪江町で震災前に「お食事処どこ」など複数の飲食店を展開していましたが、地震の被害が少なかった元のどこどこ店を改修して、心機一転ラーメン店「サッポロラーメンたき」をオープンしました。
- 「サッポロラーメンたき」はかつて、店主である瀧さんの叔母上が南相馬市原町区で経営していましたが、平成28年、店舗の老朽化などを理由に惜しまれながら閉店。再開を望む声が多く、瀧さんはその味を継承したいとの思いから浪江町での復活を決めました。
- 「少しでも浪江町の復興の後押しになれば」との思いで、避難指示解除前から準備を始め、店舗の改修や従業員の確保、仕入れ先の確保に奔走しました。平成30年2月末、ついに開店。創業以来50年使用している秘伝の味噌を加え伝統の味を再現、ほんのりとした甘味とコクがあり一度食べたらやみつきになる美味しさと評判です。

有限会社宗弥（和太鼓教室 TAIKO-LAB 町田）（教育、学習支援・大熊町）



オーナーの高山恒明さん



教室の生徒さんたち



演奏会の様子

- 高山恒明さんは、昭和63年に横浜からIターンで大熊町に転入して、「蕎麦切り たか山」という手打ち蕎麦屋を開業し、23年間、地元に根付いていましたが、東日本大震災で店は半壊、帰宅困難地域にも指定され避難を余儀なくされました。
- 高山さんは避難中、味覚障害を発症し、そば職人の道を断念せざるを得なくなりました。今後の生活に頭を悩ましていた時、インターネットで「和太鼓教室の経営の募集」を見つけ、太鼓に触れ合うなかで徐々に、その魅力に惹かれ和太鼓教室を仕事にしてみようと決意。
- 生徒さんの多くは和太鼓に生まれて初めて触れる方で、小学生から80代までと幅広い年齢層に人気を博しています。経験の長い講師たちが親切に指導を行い、現在会員数は百余名にのぼります。

株式会社伊達屋（燃料販売業・双葉町）



吉田代表取締役



改修後のガソリンスタンド



給油の様子

- 「伊達屋」は震災前から、双葉町の国道6号線沿いでガソリンスタンドを経営していました。震災直後、避難指示が発令される直前まで、「こんな時だからこそできる限り給油してあげたい」と、列を作っていた給油待ちの車のため懸命に給油し続けました。
- 震災後は、地元から「伊達屋」の事業再開を望む声が寄せられましたが、課題が山積しており、事業再開の決心がつかずにいました。しかしながら、昔からの先輩や友人に背中を押されたこともあり、事業の再開を決意しました。
- 平成29年6月、「双葉町のため、復興の道を切り拓く」という強い思いで、ガソリンスタンドの営業を再開。帰還困難区域のため、屋外での業務は給油のみに制限されていましたが、現在はタイヤ交換といった軽整備も行えるようになりました。

御菓子処 たまのや（卸売業、小売業・田村市）



ご主人の奥様(右)と従業員(左)



店舗外観



店内の様子

- 創業100年以上になる和菓子の老舗「たまのや」は、震災により被害を受けたものの、すぐに事業を再開。今も地域文化を取り入れたお菓子を作り続け、地元に愛される和菓子屋として老舗の看板を守っています。
- 地元を盛り上げたいという思いから、地産地消の商品づくりにも取り組んでおり、田村市都路の鶏卵を使用した、しっとり生地と上品な甘さが特徴の「玉銅鑼」（たまどら）や、かつて田村市が全国一の葉たばこ生産量を誇ったことにちなんだ「たばこ煎餅」が人気です。
- お菓子をこよなく愛するご主人は、東京の洋菓子店で修業されていた経験を活かし、3代続く伝統ある和菓子に洋菓子の息吹を吹き込むなど、日々商品改良・開発に励んでいます。

陶吉郎窯（窯業・浪江町）



近藤学さん(右)と息子の賢さん



登り窯



作品

- 浪江町で300有余年の歴史と伝統を持つ、大堀相馬焼の窯元「陶吉郎窯」の近藤学さんご子息の近藤賢さん。大堀相馬焼の魅力をより多くの人に伝えられるよう、数多くの展覧会への出展やCMに出演してきました。
- 震災後、浪江町大堀地区は帰還困難区域に指定され、いわき市へ避難。葛藤がある中、陶芸への思いは強く、再開への準備を進め、震災からわずか3ヶ月で本格再開に向けて始動しました。
- 平成30年4月には、いわき市四ツ倉に新工房をオープンさせ、「特別企画展」を開催するなど、現在も精力的な制作活動に奮闘中。伝統を継承しつつ、繊細な造型をほどこした象嵌（ぞうがん）作品などの作陶を続けています。

トリニティプロジェクト株式会社（麺屋酒房ぼっけもん）（飲食サービス業・富岡町）



代表取締役 鈴木秀希さん



富岡店



おすすめの
「肉みそとんこつラーメン」

- 震災前、富岡町で10年以上営業してきたラーメン店「ぼっけもん」。震災により、代表の鈴木さんは会津若松市やいわき市へ避難しましたが、平成24年4月、避難先のいわき市で営業を再開しました。
- 鈴木さんの故郷である富岡町に対する思いは熱く、いわき店の営業を続けながら、富岡町での「ぼっけもん」再開に向けた準備を進め、平成30年4月、ついに富岡店を再オープンさせました。
- 富岡町で夜にお酒が飲める貴重なお店の「ぼっけもん」。鈴木さんは、「富岡町にくつろげる場があれば、おのずと客は来るはず」と、おいしいラーメンを日々提供し、夜は憩いの場となる居酒屋を目指し奮闘しています。

有限会社ナラハマイカーセンター（自動車販売・楡葉町）



猪狩勝広専務取締役



整備工場



トラックの販売所

- 「ナラハマイカーセンター」は、昭和48年に楡葉町で開業。地域に密着した乗用車の販売、整備を行ってききましたが、震災により従業員も離れ離れになり、会社は休業せざる得ない状態となりました。
- 震災から半年後、避難先のいわき市内で事業を再開しましたが、震災前の顧客は郡山市などに避難されており、乗用車の販売は難しい状況にありました。また、近隣の販売店にも配慮し、乗用車販売の競合を避け、トラックの中古車販売事業を展開していきました。
- 再開後の間もない頃は、震災前の顧客とのつながりも失っていたため、苦労も絶えませんでした。その後、商用車(特殊車両)のネット販売拡大や販売後のアフターケアを大切にする営業活動を心掛け、お客様から信頼される販売店を目指し従業員一丸となって取り組んでいます。

ふじさき じゅらん
日本舞踊藤咲寿蘭（教育、学習支援業・大熊町）



藤咲寿蘭さん(橘 弘美さん)



稽古風景



一番弟子の横川 成美さん

- 会津若松市で日本舞踊の教室を主宰する「藤咲流日本舞踊 藤咲寿蘭さん（本名：橘 弘美さん）」は震災前、大熊町に教室を構え、20名の生徒さんたちに作法と着付け、そして踊りの稽古をつけていました。
- 震災後は避難先を転々とした後、大熊町の住民が多く避難している会津若松に居を構え、同様に会津若松に避難しているお弟子さん18名を集め、踊りの教室を運営されています。
- 毎年、東山温泉や会津文化センターで発表会を行うと共に、会津の皆さんへの感謝の気持ちを込めて、「舞踊とスポーツ民踊を楽しむ会」（ふれあい交流会IN会津）を開催するなど、大熊町だけでなく、会津若松の皆さんとも交流が広がっています。

抱月荘（宿泊業・南相馬市原町区）



ご主人の高藤章司さん(左)と
ご家族のみなさま



自然豊かな日本庭園



自慢の懐石料理

- 自然豊かな日本庭園などが魅力で、多くの観光客や地元の人たちに利用されてきた「抱月荘」。震災による旅館施設の損壊、原発事故による避難指示により、ご主人の高藤章司さんも「抱月荘」をどうして良いのかわからず、途方に暮れていました。
- そのような中、長男の明彦氏が「抱月荘」を再開させたいとの強い思いを持ち、避難先の熊本から帰還。広い日本庭園の除染作業を黙々と始め、平成29年5月に除染を完了、平成30年5月に旅館施設の改修も終了し、本格再開までこぎつけました。
- 再開後は、40年来のなじみのお客様や県内・外から多数のお客様が訪れ、綺麗な畳の部屋から季節折々の庭園の色彩を眺めながら、東京の料亭で長年にわたり修業をしてきた明彦さんが創る、四季を感じる会席料理と希少な日本酒を堪能しています。

ホテル西山（旅館業・南相馬市原町区）



従業員の皆さま



ホテル外観



客室

- 大正12年に西山旅館として創業し、昭和54年に「ホテル西山」と改名。震災前には県内外の方々に利用されていました。震災後も、復興関連の業務に携わる作業員などへ宿を提供するため、休業することなく営業を続けています。
- 平成29年6月からホテルの建替工事に着手し、平成30年5月16日に地上7階建ての客室38室、展望デッキやサウナも完備した高級感のある近代的なホテルとしてリニューアルオープンしました。
- より快適な宿泊体験の提供を通して近隣地域へ観光客を呼び込むことで、地元の復興・発展に貢献していきたいとの思いのほか、宿泊者以外でも利用できる温浴施設を設けて、近隣住民の交流の場としての施設活用も目指しています。

株式会社 緑里（農業・川内村）



代表の 河原 修一さん



緑の里の百笑屋「株式会社 緑里」



人気の荳胡麻商品 & 凍みもち

- 河原さんは震災前、双葉地方森林組合で勤務しながら、家族で農業を営み、米や野菜、花卉を地元の直売所や道の駅に納品していましたが、川内村が立入制限となり、震災後は村外への避難を余儀なくされました。
- 震災1年後には再び農業に取り組み、さらに平成27年には農業生産法人「株式会社 緑里」を立ち上げました。「緑里」では昔から川内村で栽培していた荳胡麻に注目し、収穫した荳胡麻から荳胡麻油を製造・販売する六次化に取り組みました。
- 凍みもちなど取り扱い商品も多様化。平成31年には村の搾油施設が完成予定で、本業の米作（川内米のブランド化）だけでなく、搾油施設を活用した自前の荳胡麻油が出荷できると力を入れています。

株式会社ユアライフ（医療、福祉・富岡町）



鈴木社長とご主人(会長)



ユアライフ エントランス



なかよし地蔵

- 「ユアライフ」は平成18年、富岡町で「民間にしか出来ない細かいサービス提供」をモットーに、高齢者のグループホーム、デイサービスや居宅介護の事業を開始。会社設立5年目の記念事業を計画した矢先に、震災に見舞われました。
- 避難指示を受け、ホーム利用者と職員で川内村をはじめ避難所を転々とし、厳しい環境での仮設のグループホームも経験。平成25年9月に県からの支援もあり、現在の福島市でグループホームを開所し現在に至っています。
- 代表の鈴木洋子さんは、入居者には尊敬と感謝の念を持ち、いたわりの心で家族のように接し、『のんびり、ゆったり、その人らしく』をモットーに、入居者が穏やかに過ごせるよう心掛けています。また、玄関前には、入居者をはじめ多くの方々に鎮魂と安らぎがもたらされるよう「なかよし地蔵さま」を建て、皆に愛されるお地蔵さまになっています。

